

談 話 室

第 25 回日本眼科学会専門医認定試験を終えて

第 25 回日本眼科学会専門医認定試験は平成 25 年 6 月 7 日(金), 8 日(土)の 2 日間にわたり, 昨年と同様, 東京の渋谷駅前のフォーラム 8 で行われた。ここに, 昨年 7 月から試験まで 1 年の長きにわたりお世話いただいた関係各位に厚く御礼を申し上げたい。

今回の認定試験の概略とその結果, 印象などについて以下のとおり報告する。

1. 日 程

平成 25 年 6 月 7 日(金) 筆記試験(フォーラム 8)

午前 9 時 30 分から 2 時間, 一般問題

午後 1 時から 2 時間, 臨床実地問題(視覚素材付き問題)

平成 25 年 6 月 8 日(土) 口頭試問(フォーラム 8)

午前 9 時から口頭試問は受験者 1 名ごとに同じ問題を用いて個別に行った。

2. 受 験 者 数

受験申請の受理者数は 294 名, 欠席者 6 名で最終的に受験者数 288 名であった。内訳は初回受験者 215 名(74.7%), 再受験者数 73 名(25.3%)。勤務地の地域別には北海道 13 名, 東北 12 名, 関東甲信越 63 名, 東京 61 名, 北陸 9 名, 中部東海 31 名, 近畿 54 名, 中国 10 名, 四国 6 名, 九州 29 名であった。昨年に比べ, 受験者数は 100 名減少したが, 初回受験者の占める割合に大きな違いはなかった(昨年は 73.7%)。

3. 問題数, 平均点, 合否判定, 合格率

筆記試験問題は例年と同じく一般問題 100 題, 臨床実地問題(視覚素材付き問題)50 題の合計 150 題。KV (key validation) 委員会を開催し, 正答率と識別指数を参考にしながら問題の妥当性を検討し 1 問題を採点から除外した。昨年と同様に一般問題, 臨床実地問題をそれぞれ 100 点満点として, 両者の合計を加算して 200 点満点として採点した。

採点結果を昨年のもものと並べて表 1 に示す。

口頭試問については, 例年通り試問前日に試問委員全員で実施手順の確認を行った。試問当日早朝に実際の試問の提示を行い, 問題内容, 試問方法, 合否判定基準について全員で検討を行った。それぞれの口頭試問は 2 名の委員で 1 つの班を作り, 班ごとに会場を用いて一人につき原則 15 分間を使って試問を行った。試問終了後に両者が合議のうえ不合格判定検討対象者

表 1 筆記試験成績

回		一般問題 (100 点満点)	臨床実地問題 (100 点満点)	総合 (200 点満点)
24	最高点	95.0	90.0	181.0
	最低点	35.0	34.0	72.0
	平均点	68.4	66.9	135.3
25	最高点	89.9	90.0	175.9
	最低点	30.3	34.0	68.3
	平均点	65.5	64.2	129.7

表 2 最近 6 年間の初回受験・再受験別合格率

回	年	初回受験者	再受験者	総合合格率
20	2008	76.0%	39.1%	65.3%
21	2009	74.5%	45.2%	60.6%
22	2010	74.3%	23.2%	60.8%
23	2011	81.0%	56.9%	73.3%
24	2012	87.8%	56.9%	79.6%
25	2013	83.7%	28.8%	69.8%

の選別を行った。合否判定は試問翌日の 6 月 9 日(日)に各班の班長と試験委員会委員長, 副委員長などによる判定会議を開催して行った。口頭試問の問題の評価, 各班の受験者の状況について報告を受け, それをもとに合否判定の基準の再確認を行った。その後, 口頭試問の不合格判定検討対象者について, 班長の報告を受け全員で検討し, 合否判定を行った。最終的な合格条件は筆記試験が 200 点満点の 120 点以上, 口頭試問で合格の両者を満たすこととした。

今回は合格者 201 名, 合格率 69.8% で, 不合格者の内訳は, 筆記試験不合格者 86 名, 口頭試問不合格者 8 名, 重複を除くと不合格者数は 87 名となった。

4. 初回受験者と再受験者

最近 6 年間の初回受験者, 再受験者の合格者数と合格率を表 2 に示す。

昨年は初回受験者の合格率が 87.8% と高率であったが, 今年も 83.7% と比較的高い合格率が得られていた。一方, 再受験者の合格率は 28.8% と第 22 回の 23.2% に次ぐ低いものになった。初回受験者のほとんどが, 眼科研修プログラム施行施設(基幹研修施設)での研修プログラムの修了者であると推定され, 本プログラム

が一定の効果を上げていると思われた。

5. 筆記試験問題

筆記試験問題の作成は、73 名の出題委員に依頼。眼科専門医認定試験出題基準に準拠して各専門分野別に分け、一人あたり一般問題 5 題以上、臨床実地問題 3 題以上の作成をお願いした。過去のストックされた問題とあわせて 630 題から選定を行った。述べ 6 回にわたる選定とブラッシュアップが行われ、150 題が作成された。この間、担当委員の先生方には毎回 2 日間、ホテルに軟禁状態で作業を繰り返していただいた。お忙しいなか、貴重な時間を割いてくださった先生方にこの場を借りて深く御礼を申し上げたい。

6. 口頭試問

口頭試問は 10 名の試験委員に 1 月に各人 2 題をめぐりに出題を依頼し、提出いただいた 25 題の問題をもとに堀田副委員長が 2 題作成し、委員長とともに最終案をまとめた。

問題 1 は後発白内障の症例を提示し、治療と起こりうる合併症、さらに実際に YAG レーザーによる後囊切開の方法を図示してもらう問題。問題 2 は片眼の白色瞳孔の症例で、小児の診察法や鑑別診断、さらに網膜芽細胞腫であった場合の眼球摘出の実際の手技を問

う問題とした。問題 1 は実際に眼科診療を行っていれば必ず解答できるものと考えて出題したが、ほとんどの受験者が適切な回答ができていた。一方、問 2 については乳幼児の診察法を適切に述べる事ができた者は少なく、また眼球摘出について正確に述べる事ができたものはさらに少数の者に限られていた。

7. 今後の試験のありかた

専門医試験は 25 回と回数を重ねている。日本専門医制評価・認定機構からも眼科の専門医試験は高く評価されているようであるが、設問のありかた、解答と合否の判定法などさらに検討を加えていく必要があると思われる。試験委員の間でも眼科専門医試験において何をどう問うべきかは常に議論になっている。問題の選択にあたっては出題基準をもとに偏りがないようにしているが、領域によっては良問が得られにくいことがある。一部、問題の形式を変えていくことが検討されるべきかと思う。第 22 回から三村委員長のもと、副委員長を 2 年、その後第 24 回と第 25 回は委員長を務めさせていただいた。この間、関係する先生方と日本眼科学会事務局のスタッフには本当にお世話になった。この場を借りて御礼申し上げたい。